

## 経済倶楽部便り

◆東京◆ 4月は当倶楽部にとって「魔の季節」です。年度初めにお出する会費請求が退会の呼び水となるからです。今年は21名の個人会員から申し出がありました。講演会参加は心身共の健康維持に絶好ながら、寄る年波に無理は禁物とおっしゃる方が少なくないのは残念なことです。もちろん一方で入会される方も多く、昨年度の個人会員は2名の純増でした。

さて、6月の講演会には平田竹男氏(早稲田大学大学院教授)、歳川隆雄氏(「インサイドライン」編集長)、藤原帰一氏(東京大学大学院教授)、三國陽夫氏(三國事務所代表)、渡辺利夫氏(拓殖大学総長・学長)をお招きします。

新会員を紹介します。加藤高明氏、賀屋明雄・シモンズ特別顧問、濱田義文・サンリッチモード代表取締役

役社長。

(塚田 紀史)

◆中部◆ 今年に入り南海トラフ地震の予測から浜岡原発の想定津波高が8メートルから21メートルにカサ上げされ、中部でもエネルギー問題への関心が高まっています。4月に当倶楽部が実施した「メガソーラーたけとよ」の見学にも予想以上の参加がありました。同施設は中部電力が武豊火力の隣接地に昨年建設したものです。ナゴヤドーム3個分、14万平方メートルの敷地に4万枚の太陽光パネルを敷き詰め、2000世帯分の電力を賄えます。しかし、都心に広い敷地を見つけるのは容易ではありません。東京23区内に900万人、名古屋市なら220万人が居住しています。これだけでも太陽光発電の非力さがわかります。原発事故の脅威も座視できないだけに悩ましいところです。

6月の定例講演会は政治評論家の塩田潮氏、中東問題研究の宮田律氏、名古屋大学大学院教授で地震対策の福和伸夫氏を予定しています。

(日暮 良一)

## 社団法人経済倶楽部（東京）とは

Q 経済倶楽部の主な事業は何ですか。

A 毎週金曜日の12時40分から2時頃まで開かれる定例講演会が中心事業です。東京駅日本橋口5分の東洋経済ビル9階にあるホールが会場で、年に約45回開かれています。ほかには経済金融懇話会や物申す会（いずれも会員相互の勉強会、毎月）、事業所見学太云（年2回）、銷夏・忘年パーティ、ゴルフ親睦会、映画鑑賞会（毎週金曜日2時から）などがあります。

Q 会員制度はどのような仕組みですか。

A 会員は約670名で、法人（3名連記）と個人からなり、個人の半年会費は4万2000円です。入会には会員の紹介が基本ですが、紹介のない場合でも入会は可能です。会員は講演会の聴講、『講演録』の購読、各種企画への参加ができ、ホールや会議室利用・食堂での飲食その他での割引の特典もあります。

Q 『講演録』だけ購読したいのですが。

A そのようなご希望をしばしばいただきますが、『講演録』の購読は会員限定となっております。定価は会員が友人などに贈呈したいときのためのものです。

◆『経済倶楽部講演録』バックナンバーのご案内

\*5月号 三品和広（神戸大学大学院教授）「成長あり

きの戦略は幻想になった——どうする？日本企業」小

菅信子（山梨学院大学法学部教授）「放射能とナシヨナ

リズム——福島」と〈フクシマ〉のあいだ」澄川喜一

（日本芸術院会員、東京芸術大学元学長）「東京スカイ

ツリーの秘密」前田昌孝（日本経済研究センター主

任研究員）「株式市場に転機は来たか」

\*4月号 伊藤元重（東京大学大学院教授）「内外経済

の課題」後藤謙次（政治ジャーナリスト）「3月危機

の虚実」大武健一郎（大塚ホールディングス副会長、

元国税庁長官）「日本経済の行方」中岡望（東洋英和

女学院大学教授）「迷走する共和党予備選挙」